

「事實上の丸腰のまま戦争放棄、平和主義を独善的に唱えているだけでは、他国の侵攻への野心を打ち砕けない時代に入りました」—終戦記念日の15日に発表した談話で、日本維新の会の馬場伸幸代表は「新しい戦前」づくりに向かう危険な姿勢を打ち出した。同日の靖国神社集団参拝では、維新からは自民党に次ぐ13人も議員が参拝していました。この維新の姿勢に対する、同会の「出面」が関係しています。

日本維新の会の「創業者」ともいわれる橋

「靖国」派と共に鳴る維新 侵略戦争美化の地金あらわ

下徹氏（元大阪府知事）自身が「維新を創った創業メンバーは自由党を割ってきた人たちだ」（7月29日、ネット番組）と話している通り、地域政党「大阪維新の会」が設立された当初、所属議員の9割近くが自民党地方議員からの「いじめ」でした。それで、維新の会の後レジームからの脱地金は、自民党の中でも、「靖国」派とも、侵略戦争美化勢力である「靖国」派どもがつていています。2012年2月26日に大阪市内で開かれた教育再生会議では、安倍晋三元首相と松井一郎大阪府知事（当時）が同席し、「田の丸・君が代」での起立・齊唱の強制のための条例について、意氣投合。パネリストをつとめた「靖国」派の教育団体「日本教育再生機構」の八木秀次氏も「条例案は安倍先駆からのがれでし生の志を受け継ぐもの。大阪の動きは『戦の談話を行動は、改めしました。

この談話を行動は、改めて維新の会自体が、「靖国」派、日本會議の勢力の一員をなす」と示してしまいます。（島）